

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-1
学校・家庭・地域の連携協力による教育の充実

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

社会教育課長 福岡 直

電話番号

0852-22-5910

事務事業の名称	実証！「地域力」醸成プログラム事業	
目的	(1) 対象	公民館
	(2) 意図	“人づくりの拠点”である公民館が培ってきた「地域力」醸成のノウハウを、モデル公民館を選定して実証し、「地域力」の重要性について世論喚起を進める。
事業概要	学校・家庭・地域が連携して社会総がかりで教育力を充実していくためには、県民が主体的に学習・実践活動を行う「地域力」（＝自治・自立の理念に基づく地域の底力）を高めていく必要がある。このため、地域に根ざした様々な住民自治活動の中核を担っている公民館に焦点を当てることとし、公民館が蓄積してきた成果を全県的に波及させていくため、事例を再検証し、地域力醸成のノウハウを調査・研究する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	目標値		5.0	5.0	5.0	5.0	公民館数
		取組目標値						
	式・定義	実績値	6.0					
		達成率	—	—	—	—	—	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	—	—	—	—	—	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	2,910	1,926
うち一般財源 (千円)	2,910	1,926

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・県内に319館ある公民館等では、多様な学習活動が行われているが、公民館等で実施されている講座・教室は、「家庭教育・家庭生活（731事業）」「趣味・けいこ（319事業）」が多く、個人の要望に応じた学習活動が中心となっている。
・公民館活動の活性化を図るために、平成19年度から実証！「地域力」醸成プログラム事業を実施し、これまでに128館等をモデル公民館として選定し、公民館等が実施する地域課題の解決や地域活性化につながる取組を支援してきた。
・市町村や公民館の取組には、差があり、公民館活動が十分でない市町村や公民館等がある。また、公民館職員数が2名以下の公民館が73館（約28%）、年間事業費500千円以下（24%）の公民館が58館となっており、人的・財政的な基盤が弱い公民館がある。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・県立大学浜田キャンパスと国府公民館が連携して、若者の地域参画を促すモデル的な公民館事業を実施することができた。
・東部、西部の2カ所若手の公民館等職員が集まり、若者の地域参画を促す公民館事業について検討し、4つの公民館においてモデル事業を実施した。
・地域の若者世代が中心となって、多世代交流を促進する取組を公民館等が支援するモデル事業を県内6館で実施し、若者が地域活動へ参加するきっかけとなった。
・複数の公民館によるふるさと教育の取組成果を研修会で発表した。
・これらのモデル公民館の実践事例集を関係者に配布し、広く情報発信した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・モデル公民館やモデル事業の取組が継続せず一過性のもので終わったり、自立的な公民館活動に発展しない。
・モデル公民館やモデル事業のノウハウについて普及啓発を図っているが、他のすべての公民館まで波及しない。
・子どもたちを対象とする地域ふるさと体験活動が質的にも量的にも不十分である。

②困っている状況が発生している「原因」

・市町村の財政状況が厳しいため、予算が減ると同時に取組が終了するところがある。
・モデル公民館の取組がよいとわかっていても、予算が足りなかったり、公民館職員の勤務日数や頭数が少ないと、新たな取組に踏み出すことができない。
・公民館機能が弱いと、生涯学習的な事業中心となり、「地域課題」に関する事業に取り組みない。
・宿泊体験活動のノウハウが周知されず、その効果についても裏付け資料が不足している。

③原因を解消するための「課題」

・公民館は市町村の施設であるが、県にとっても地域づくりを担う人づくりの拠点であると認識し、総合的に市町村を支援する必要がある。また、これらの支援を通して、市町村が公民館等の役割やあり方について再認識できるように働きかけをする必要がある。
・宿泊を伴うふるさと体験活動のノウハウや効果について明らかにする必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・公民館機能が発揮され、公民館活動の活性化、発展につながるよう、支援策または事業費の補助のあり方について検討し、総合的に市町村を支援していく。
・宿泊を伴うふるさと体験活動のノウハウや効果について明らかにするとともに、量的・質的な充実を図っていく。

9. 追加評価（任意記載）

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。